

# SDGs 未来都市等進捗評価シート

三重県志摩市

2019年8月

SDGs 未来都市計画名






志摩市 SDGs 未来都市計画

# SDGs 未来都市等進捗評価シート

2018年度

## 1. 全体計画

自治体SDGsの推進に資する	志摩市 SDGs 未来都市計画
2030年のあるべき姿	世界文化遺産・世界農業遺産への登録推進

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール8 ターゲット8.9 	ゴール11 ターゲット11.4 ゴール12 ターゲット12.8  	ゴール14 ターゲット14.2 ゴール14 ターゲット14.4 ゴール15 ターゲット15.5  

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	年間入込客数【8.9】	2015年3月	3,799 千人	2025年	4,120 千人	
2	外国人宿泊客数【8.9】	2015年3月	46,244.0 人	2025年	120,000 人	外国人宿泊客数は2018年は前年比2.9%増の55,101人となっており、全国と比較すると伸びは鈍化している。	
3	世界遺産登録数【11.4】	2018年3月	0 件	2030年	2 件	2019年5月には鳥羽市と志摩市合同で申請を行っていた「海女(Ama)に出逢えるまち鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち」が、令和元年5月20日、日本遺産に認定されました。	
4	学校1校あたりの環境教育実施回数【12.8】	2016年3月	10 回	2025年	20 回	2018年は1校あたり12回実施。引き続き実施回数の向上を目指す。	
5	干潟再生面積【14.2】	2015年3月	5 ha	2025年	10 ha	干潟再生については、候補地を探索中。	
6	漁業者による自主的な水産資源管理魚種の拡大【14.4】	2018年3月	12 魚種	2020年	15 魚種	管内漁業協同組合と協議中。	
7	外来生物防除活動回数【15.5】	2015年3月	2 回	2025年	10 回	2018年は市民団体主導で外来生物防除活動を4回実施した。	

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 庁内各課の事業とSDGsのゴールの関連付けを行い、各種計画への反映については、計画見直しにあわせて順次行っていく予定をしている。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ SDGs未来都市推進室を設置し、SDGsに関する業務を所掌する部署と位置付けた。また、庁内でのSDGs推進のため、市長を本部長に位置付けた「SDGs推進本部」を設置し、関係部署との連絡調整を行う体制をとった。</p>	<p>■市民向けの取組として、広報紙にSDGsに関連した情報や取組を紹介している。 持続可能な水産物の大切さの普及・啓発に取り組んでいるシェフの方々を志摩市に招待し、市内で資源管理型漁業に取り組んでいるイセエビ漁業者との交流や現場視察を行った。現場を見ていただいたシェフの方と連携し、三重県のアンテナショップ「三重テラス」において、都内のシェフや食に関するメディアの方と意見交換をするイベントを開催した。 また、三重大学、学校法人立命館、辻調理師専門学校などの国内で食に関する研究活動を行っている教育機関との連携を密にしている。これらの教育機関と連携することにより、食材の生産から消費に至るまでの過程を通して、「志摩の食」としての定義を明確にするとともに、志摩市を学びのフィールドとする学生に対して、SDGsに関する学びの場を提供する。</p>	<p>・世界遺産をテーマに、3側面に統合的に取り組もうとするものであり、その計画の先進性と適格性が改めて評価できる。また、全体として、各事業の着実な進捗が見られる点も評価する。</p> <p>・SDGsを構成する、経済、社会、環境分野の中で、志摩市の重点は経済分野である。しかしながら、KPIとして掲げた年間入れ込み客数、外国人宿泊客数に関する具体的な事業施策が記述されていないため、追記することを検討いただきたい。</p> <p>・本年5月日本遺産の認定がバネとして、それぞれのKPIの動向も順調である。その際、市内住民との情報共有やステークホルダーとの連携が強く意識され、実践されている点が注目される。</p> <p>・国際学生交流、自治体ネットワークへの加盟など農業食料産業の取組が具体的に進められており、他の分野との相乗的な連携、情報共有を期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■（域内）市内業者と共同でSDGsセミナーを行うなど連携してSDGsの啓発を行った。 （自治体間）「御食国」と呼ばれた食文化について、山形県鶴岡市等とともに発起自治体となり「豊かな食の郷土づくり研究会」を立ち上げ、食文化を切り口にした各自自治体との連携を促進するために、参加を呼び掛けている。設立総会が2019年10月18日に開催される予定である。 （国際的な連携）イタリア食科学大学の学生研修を受け入れ、地域の関係者との交流することで、食の持続可能性についての関係者の意識の向上を図るとともに、学生を通して志摩の食に関する情報を海外に発信している。また、「東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）」に関わる国々の自治体ネットワークである「PNLG（PEMSEA Network of Local Government）」にわが国で唯一加入し、沿岸域の持続可能な開発に向けて、参加自治体間の情報の共有や自治体職員の能力向上に努める。</p>	<p>■水産資源などの食文化に関する情報発信を行うことで、地域の資源の価値を高める。資源価値を高めることで、農林水産業の振興を図り、後継者不足を解消する。あわせて、水産資源を域外から購入・消費するために訪問する観光客の増加も見込まれ、食文化の維持を図る。 「御食国」として古くから呼ばれる地域の伝統的な食文化を維持していくことで、地域の文化の価値を高める。</p>	

1. 全体計画

自治体SDGsの推進に資する取組の2020年のKPI	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2018年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
	御食国食文化展開事業	8.9	御食国の食文化を学ぶプログラム数	2018年3月 0本	2019年3月 2本	2020年 8本	25%	持続可能な水産物の使用に取り組む「シェフズ・フォー・ザ・ブルー」のシェフを招き、現場を視察することで地域の水産資源の価値を理解していただき、志摩市の食材のブランド力向上と需要の喚起を図った。イタリア食科学大学の研修を受け入れ、地域の食文化の魅力発信を行った。
	世界文化遺産・世界農業遺産への登録推進	11.4	世界文化遺産・世界農業遺産等への登録数	2018年3月 0登録	2019年3月 0登録	2020年 1登録	0%	2019年5月には鳥羽市と志摩市合同で申請を行っていた「海女(Ama)に出逢えるまち鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち」が、令和元年5月20日、日本遺産に認定された。引き続き世界文化遺産・世界農業遺産への登録を推進していく。
	学校における環境教育の推進	12.8	学校1校あたりの環境教育実施回数	2016年3月 10回	2019年3月 12回	2020年 13回	67%	学校における環境教育の推進については、2018年度は1校あたり12回実施した。引き続き実施回数の増加を目指す。
	干潟・藻場再生事業	14.2	干潟再生面積	2018年3月 5ha	2019年3月 5ha	2020年 7ha	0%	干潟再生については、候補地を探索中。
	水産資源管理の推進	14.4	漁業者による自主的な水産資源管理魚種の拡大	2018年3月 12魚種	2019年3月 12魚種	2020年 15魚種	0%	水産資源管理の推進については、管内漁業協同組合と協議中。
	外来生物防除活動回数	15.5	外来生物防除活動回数	2015年3月 2回	2019年3月 4回	2020年 5回	67%	外来生物防除活動については、市民団体主導で4回行った。